

2011年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野公一郎



証券コード:4572

1. 会社と事業の概要 3
2. 2011年12月期 第1四半期累計期間の経営成績の概要14
3. 2011年12月期 業績予測22
4. 2011年～2013年12月期 中期事業計画25

■会社名：**カルナバイオサイエンス株式会社**
(英文社名：**Carna Biosciences, Inc.**)

(2011年3月末現在)

■代表者名：**代表取締役社長
吉野公一郎**

■設立：**2003年4月10日
(日本オルガノンからスピンオフ)
2003年10月業務開始**

■上場日：**2008年3月25日**

■資本金：**21億2,563万円**

■発行済株式数：**58,710株**

■株主数：**3,353名(2010年12月現在)**

■役員及び従業員数：**役職員54名(単体)**

■所在地：**神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA 3F (ポートアイランド内)
(BMA:神戸バイオメディカル創造センター)
(最寄り駅:ポートライナー 先端医療センター前駅 徒歩1分)**

■事業内容：**キナーゼをターゲットとした創薬事業および創薬支援事業**



米国型の創薬ベンチャーと
なることを目指す

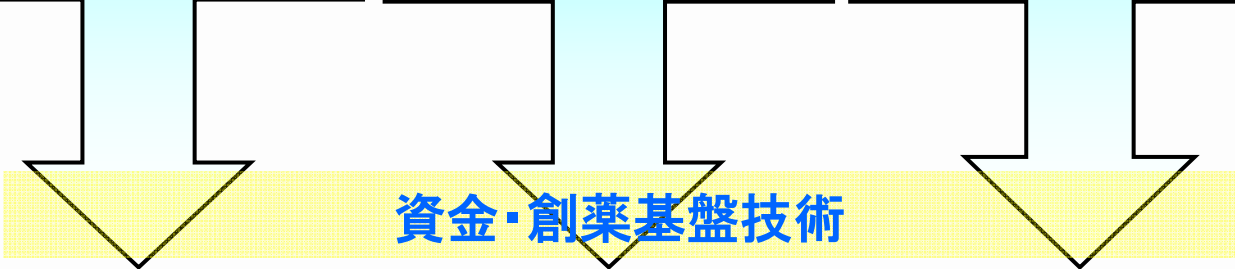
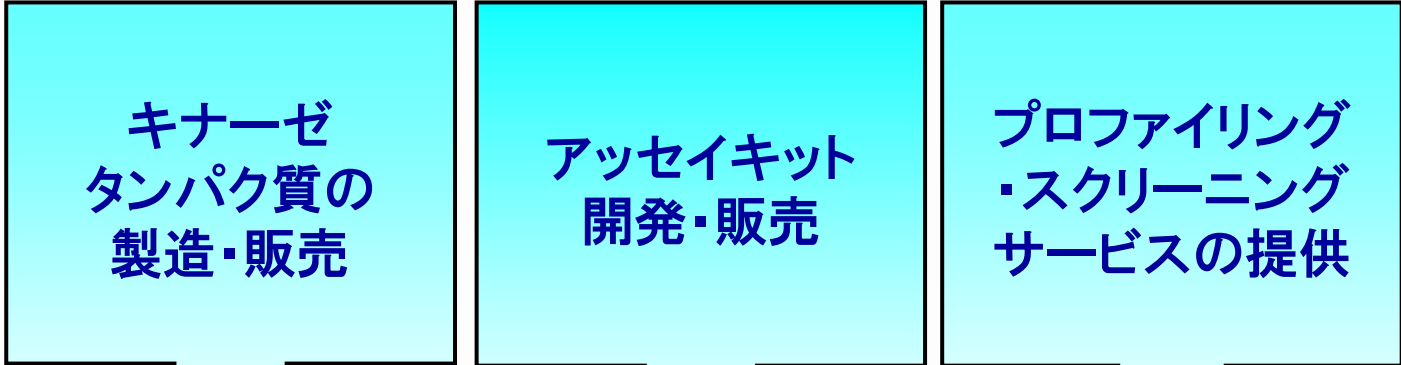


革新的な医薬を生み出す
(**ガン**治療を重点領域とした**分子標的薬**)

製薬企業、研究機関に対し、タンパク質やサービスを提供し創薬のお手伝い

創薬支援事業

- ・安定収入
- ・研究開発費の一部を自分で稼ぐ



創薬事業

- ・先行投資
- ・大きな成長を目指す



自社で画期的な新薬を開発する

アンメット・メディカル・ニーズに応えるため

ターゲット疾患: **ガン、リウマチ、神経変性疾患**
目標: **キナーゼを標的とする経口の分子標的薬を創り出す**

カルナバイオサイエンスの
創薬基盤技術

QuickScout™
(プロファイリングパネル)

キナーゼコレクション

キナーゼに関する知識の集積

化合物ライブラリー(4万化合物) X線結晶解析

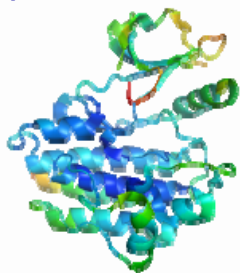
コンピューターを利用した創薬(バイオインフォマティクス、SBDD)

経口薬(飲み薬)は医療コスト面から
も患者自身の身体的負担面からも抗
体医薬等の注射剤にくらべメリットが
ある

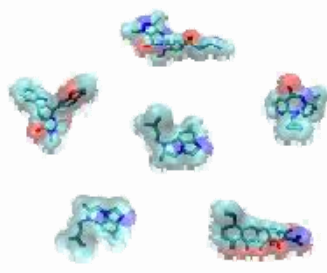


カルナバイオサイエンスの創薬基盤技術の強み

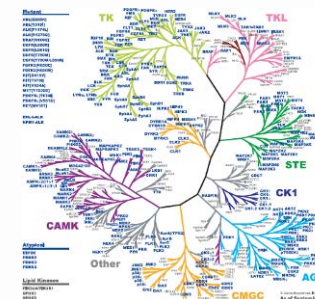
(2011年3月末現在)



世界最大のキナーゼ
コレクション(341種類)



高品質のキナーゼ
フォーカス化合物ライブラリー



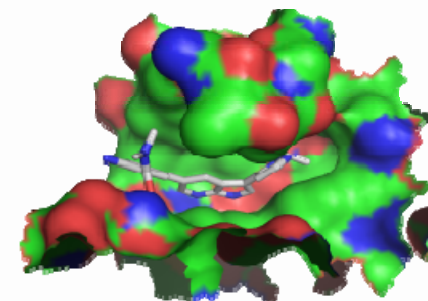
世界最大のキナーゼ
プロファイリングパネル(311種類)



高品質アッセイ系

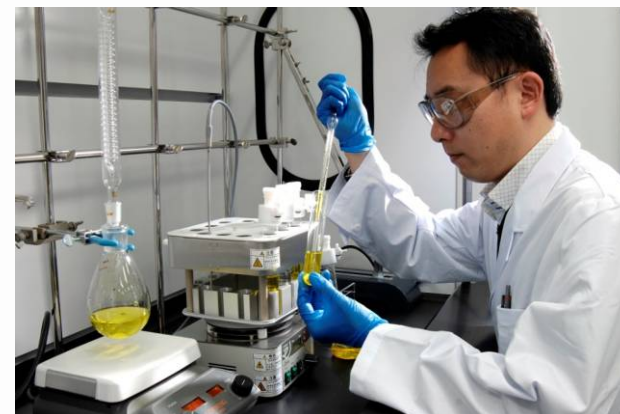
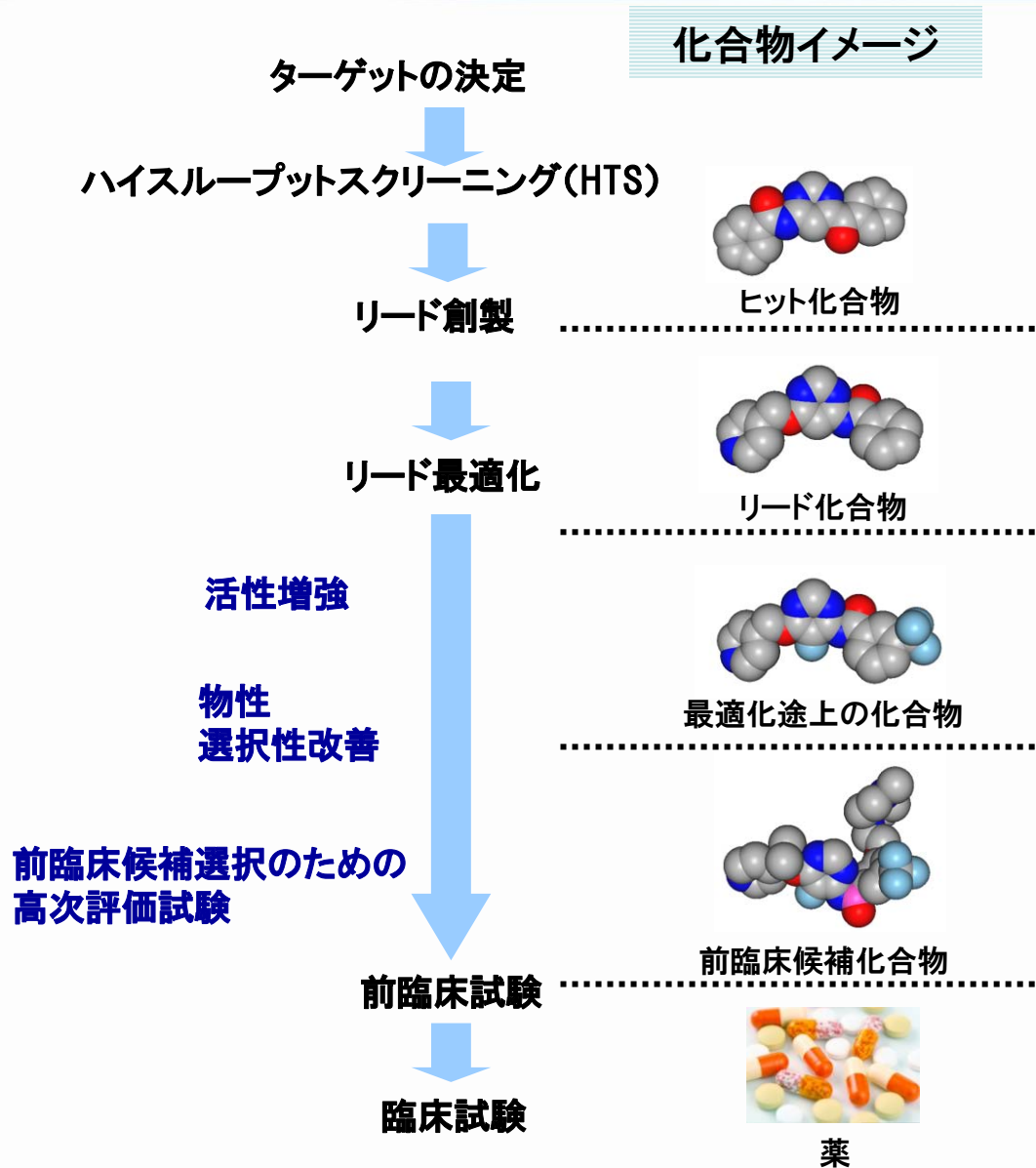


高信頼性アッセイプラットフォーム

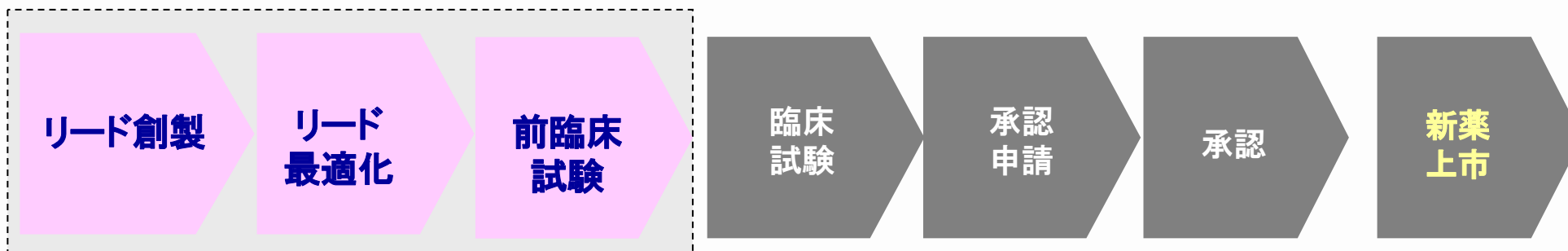


X線結晶解析

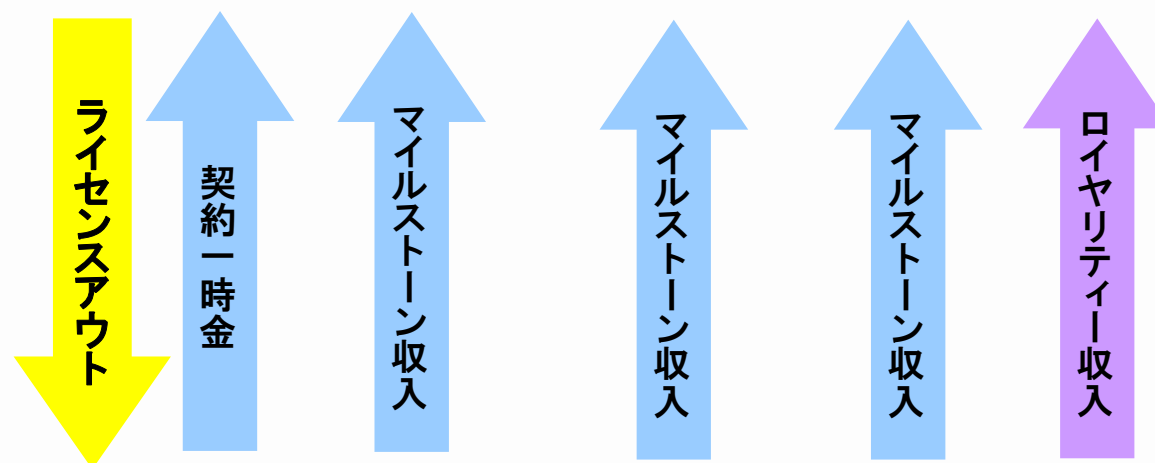
他のバイオベンチャーにはない強力な創薬化学部門を
自社内にもっていることが創薬を強力に推進する原動力



創薬事業の収益モデル①: 当社が単独で研究を始め、前臨床試験終了時にライセンスアウト

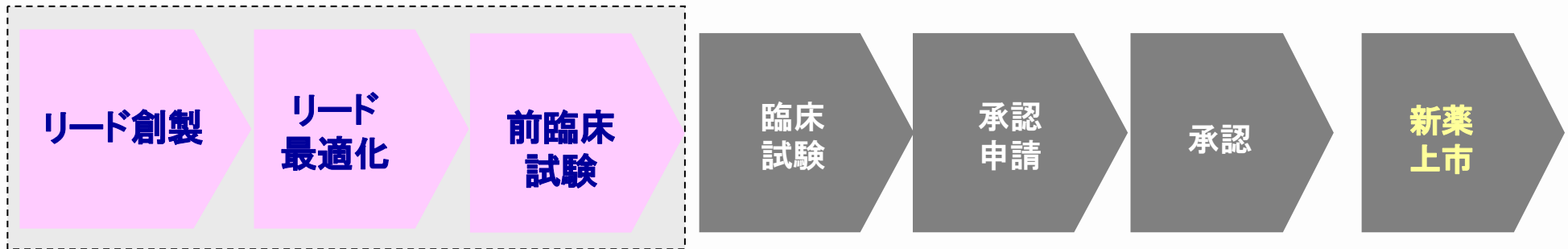


ライセンス元: カルナバイオサイエンス

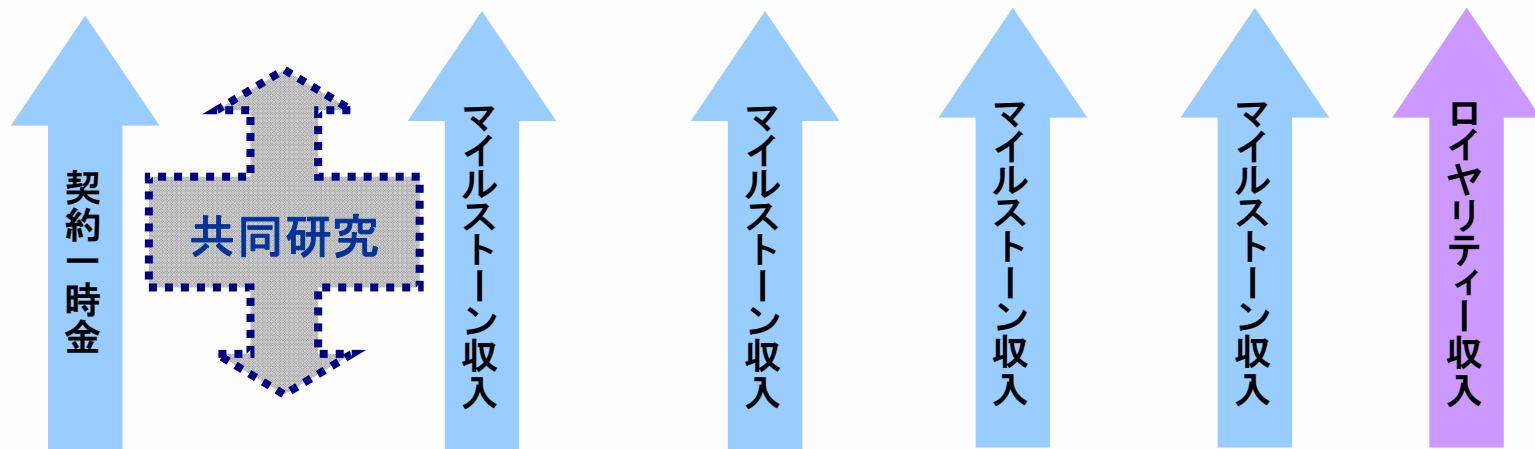


ライセンス導出先: 製薬企業

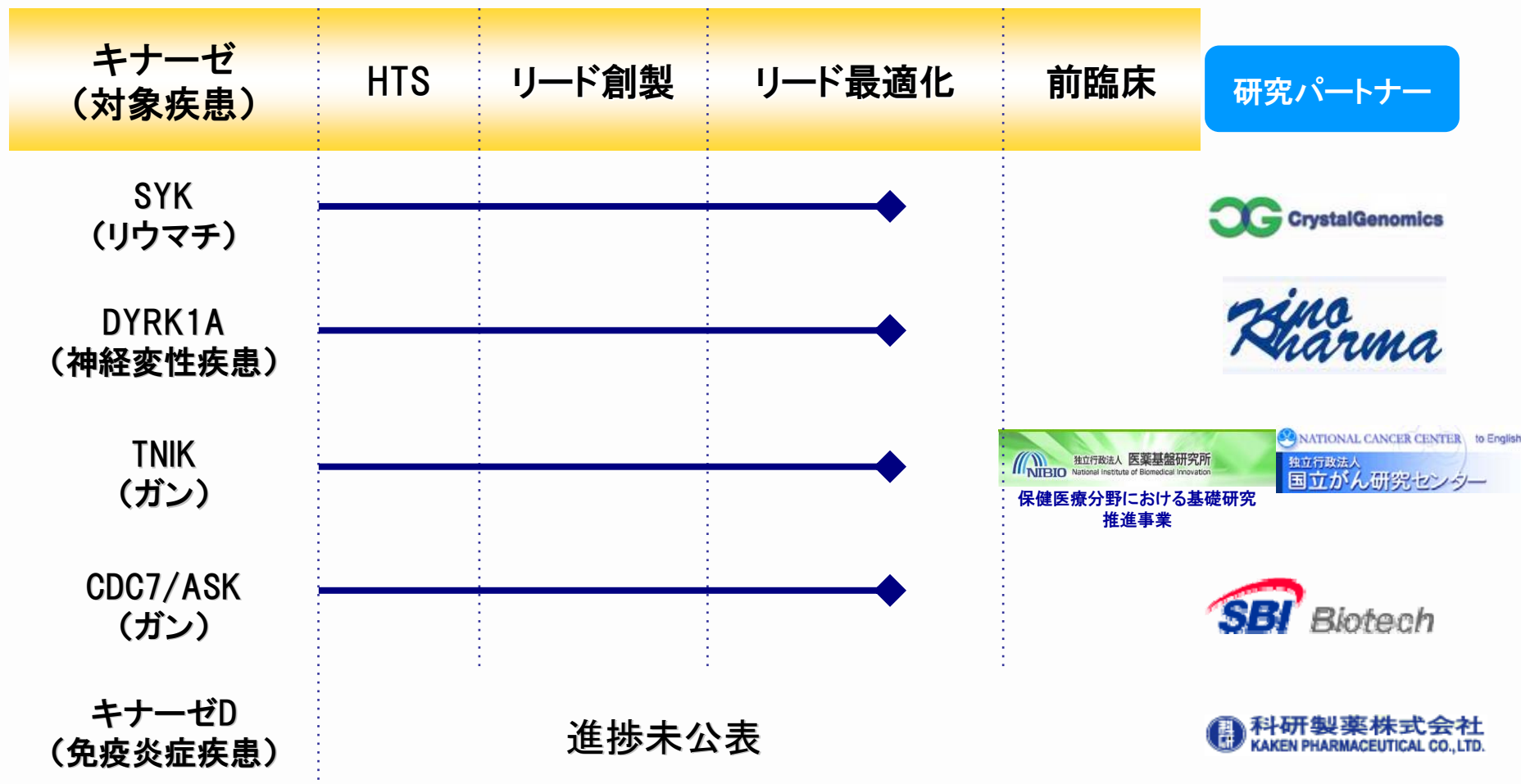
創薬事業の収益モデル②: 当社と導出予定製薬企業との共同研究を開始し、前臨床試験終了時にライセンスアウト



ライセンス元 : カルナバイオサイエンス



ライセンス導出先: 製薬企業



- キナーゼに的を絞り、世界最大の品揃えを達成。これをコアに各種ビジネスを展開
- 全世界の製薬企業、研究機関がターゲット

□ キナーゼタンパク質

- ✓ 341種類の高品質キナーゼタンパク質を供給可能
- ✓ 29種類のビオチン化キナーゼタンパク質を製品化

□ アッセイキット(開発)

- ✓ 311種類のキナーゼに対し、474種類のキットを準備

□ プロファイリング、スクリーニングサービス

- ✓ 311種類のキナーゼに対してプロファイリング可能
- ✓ プリセレクトパネル(QuickScout™)

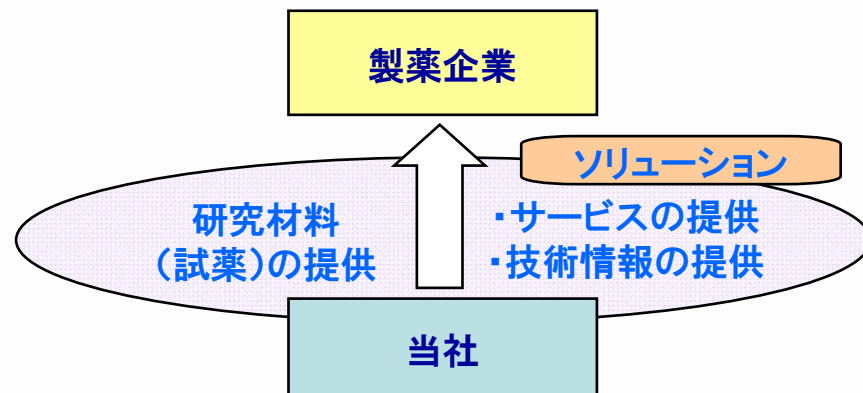
□ キナーゼX線結晶構造解析サービス

- ✓ CRELUX GmbHの代理店

2011年3月現在



- 物を売るだけではなく、ソリューションを提供する
- 顧客のニーズに適した技術情報を提供し、顧客から強い信頼を得る
- 国内、海外の大手製薬企業、バイテック企業が主要顧客で、大学等のアカデミアにも販路を拡大中



2011年12月期 第1四半期 連結累計期間 経営成績の概要

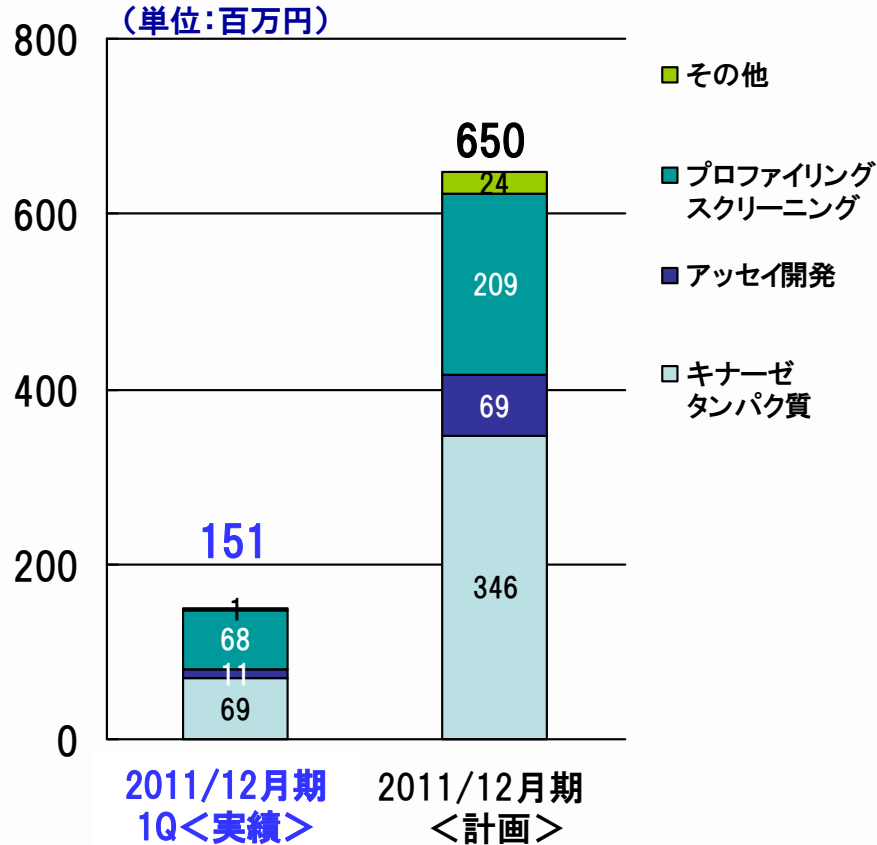
- ✓ 売上高はほぼ計画どおり、前年同期比でやや下回る(OSIが買収されたことに伴うリード探索サービスの売上減が影響)
- ✓ 営業損失、経常損失、当期純損失は、売上原価率の改善、経費削減効果により前年同期より改善

(百万円)

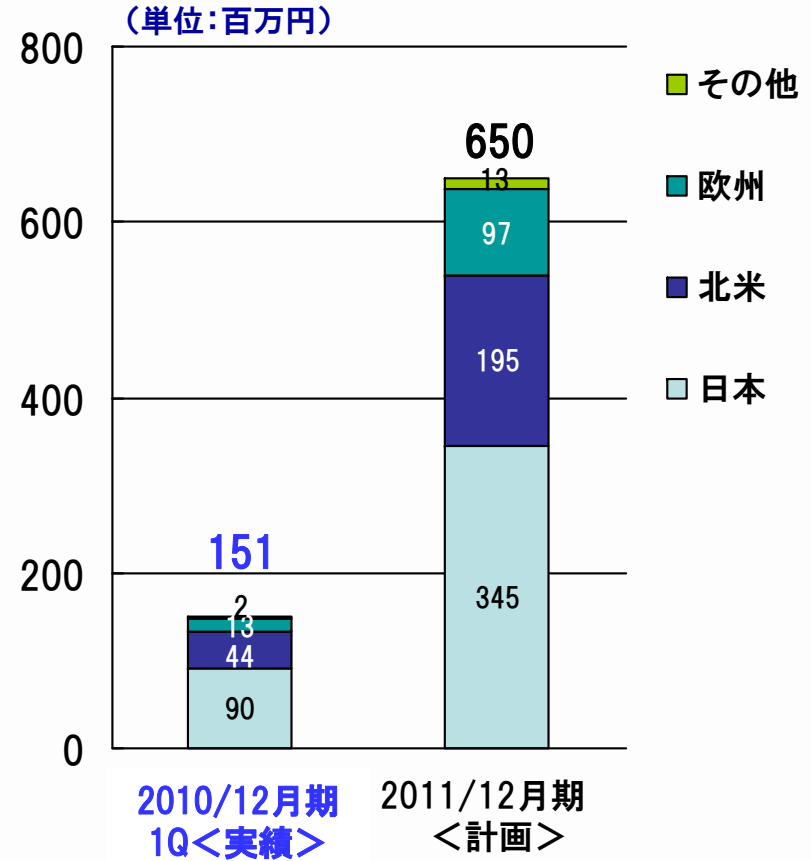
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2010年12月期 第1四半期連結累計期間	163	△93	△93	△95
2011年12月期 第1四半期連結累計期間	158	△65	△64	△80
2011年12月期 通期計画値	770	△254	△200	△221
対前年同期比	△4	+27	+28	+14
対通期計画 進捗率 (%)	20.5	—	—	—

(注)対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

製品別売上高



地域別売上高



- ・タンパク質は計画を下回る (前年同期比は13.9%増)
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは計画を上回る (前年同期比は15.7%増)
- ・アッセイ開発は計画を下回る (前年同期比は26.7%減)

- ・米国は計画通り (前年同期比は22.4%増)
- ・国内もほぼ計画通り (前年同期比は16.7%減)
- ・欧州は計画を下回る (前年同期比は64.0%増)

- ✓ 売上総利益、営業利益及び当期純利益は、売上原価率の改善及び販管費の圧縮により改善
- ✓ 特別損失は、資産除去債務に関する会計基準の適用によるもの

(百万円)

		2011年12月期 1Q累計実績	2010年12月期 1Q累計実績	前年同期比 (増減)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	151	156	△ 5	OSI Pharmaceuticals, Inc.が買収されたことによるリード探索サービスの売上の減少等による
	創薬事業	7	6	0	
	合計	158	163	△ 4	
売上原価		43	62	△ 18	
売上総利益		115	100	14	
販管費	研究開発費	78	86	△ 7	経費削減効果による
	販管費 (研究開発費を除く)	101	107	△ 5	同上
	合計	180	194	△ 13	
営業利益		△ 65	△ 93	27	
営業外損益		0	0	1	
経常利益		△ 64	△ 93	28	
特別損失		10	1	9	当期の10百万円は資産除去債務に関する会計基準の適用によるもの
当期純利益		△ 80	△ 95	14	

(単位:百万円)

	2011年12月期 第1四半期末	2010年12月末	増減額	増減理由
流動資産	1,375	1,456	△80	
現金及び預金	928	943	△15	
有価証券	200	300	△100	譲渡性預金の減少
その他	247	213	34	売掛金の増加等
固定資産	201	199	1	
資産合計	1,577	1,656	△78	
負債合計	294	290	3	
純資産合計	1,283	1,365	△81	
負債・純資産合計	1,577	1,656	△78	

(単位:百万円)

	2011年12月期 第1四半期累計期間	2010年12月期 第1四半期累計期間	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△99	△121	22
投資活動による キャッシュ・フロー	△1	△13	12
財務活動による キャッシュ・フロー	△14	48	△62
増減額	△115	△87	△27
現金及び 現金同等物の残高	1,058	1,403	△345

長期借入金の返済
による支出

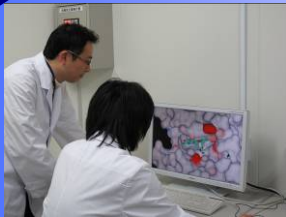
10年Q1での銀行借入
による増加

(株)キノファーマと 神経変性疾患に関する共同研究契約を締結

カルナバイオサイエンス



キノファーマ



神経変性疾患 治療薬の 共同開発

- ・ ドラッグデザイン技術
- ・ HTS(ハイスループットスクリーニング)技術
- ・ 化合物合成などの創薬化学技術
- ・ 独自のフォーカストケミカルライブラリー

高い創薬基盤技術

東京医科歯科大学発ベンチャー

住所: 東京都文京区

代表: 代表取締役 黒石眞史

- ・ 優れた薬理評価モデル
- ・ 臨床現場に密接した研究体制



様々な創薬評価技術

現在、当社BMAラボの4Fにてキノファーマ研究員と共同研究を実施中。

その他のトピックス

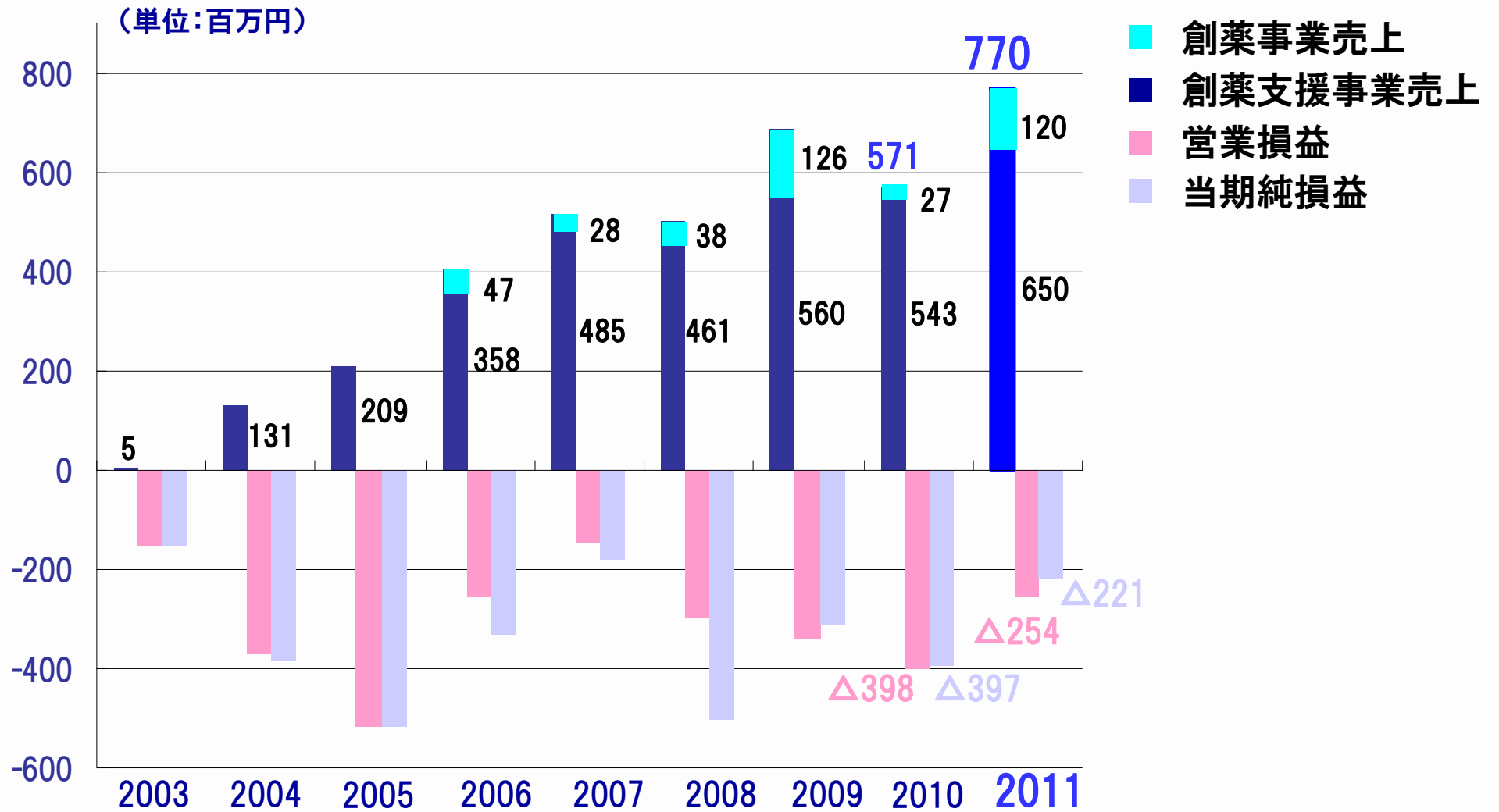
- 3月11日に発生した東日本大震災の当社への影響は軽微であった。(顧客である製薬企業の被害による3月売上の減少)
- 事業開発担当の取締役を招へいし、創薬事業に係る導出交渉体制の強化を図った。
- SBS 17th Annual Conference でポスター発表をおこなった。(3/27-31, 2011; 米国)

米国・フロリダ州オーランドで開催された第17回 SBS Annual Conference において、表面プラズモン共鳴(SPR)技術による測定系で弊社「ビオチン化キナーゼ蛋白質」を用いたキナーゼ阻害剤の評価を行なった内容について、ポスタープレゼンテーションを行ない、多くの研究者に注目されました。

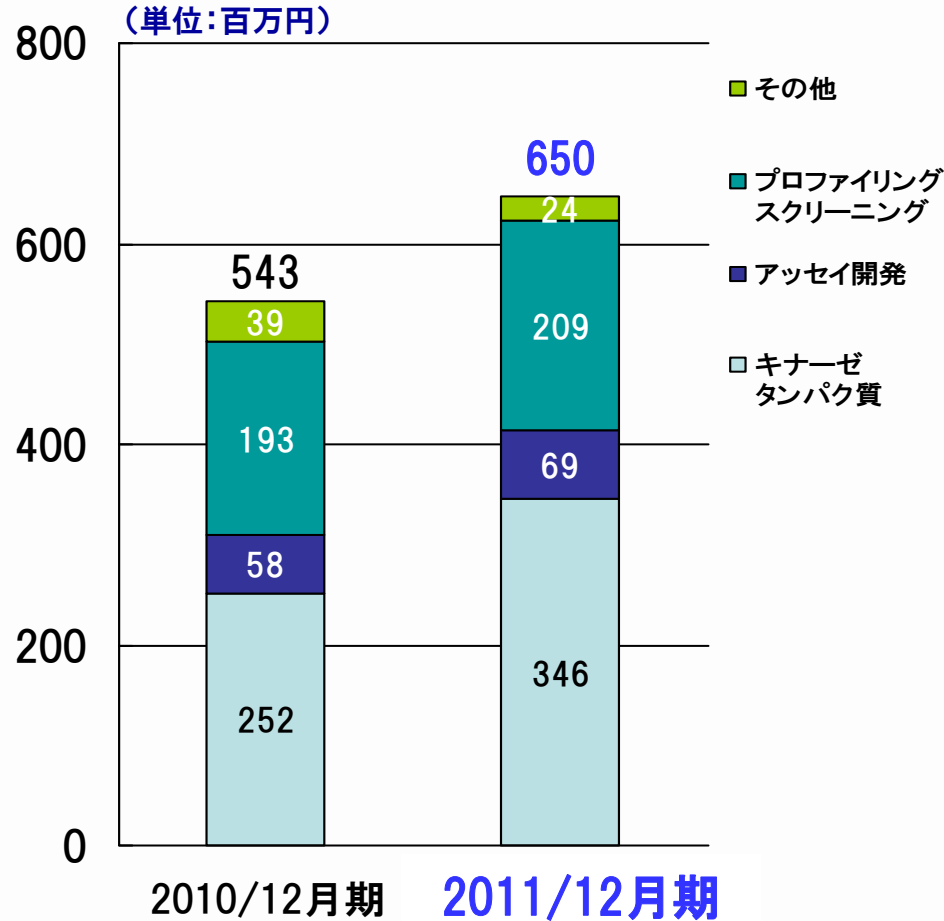
2011年12月期 業績予測

第1四半期末において、平成23年2月10日に開示しました当期の連結業績予想に変更はありません。

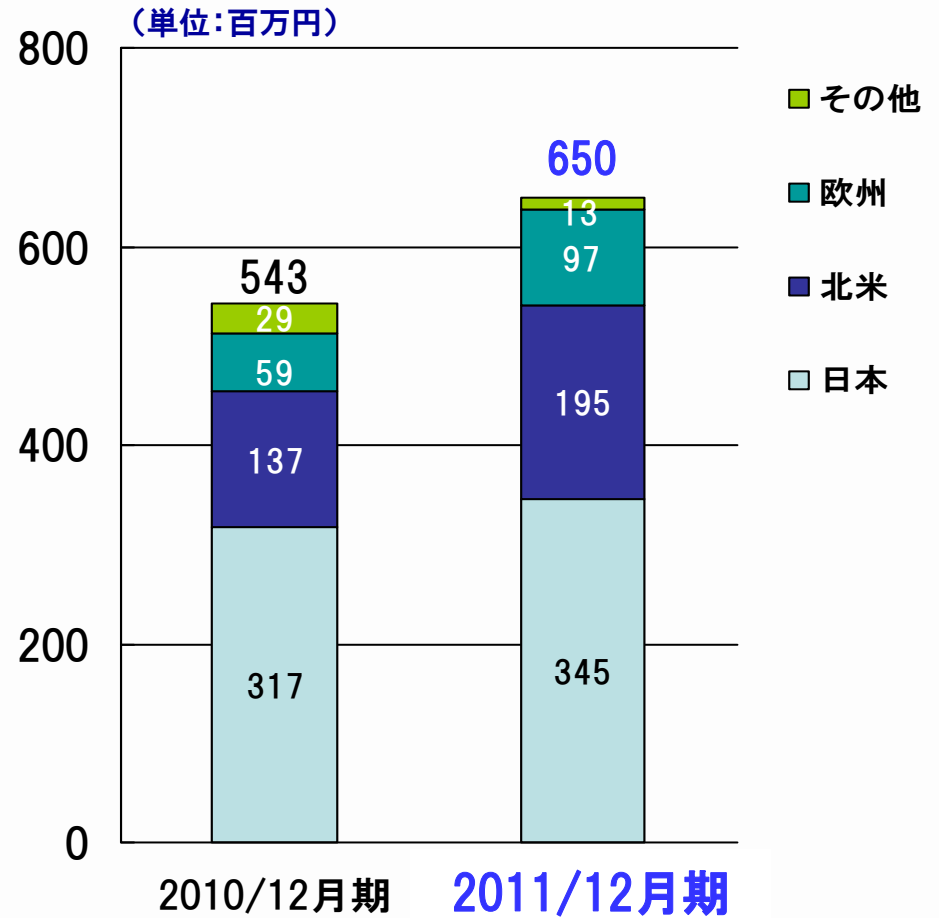
2011年度売上高、損益予測(連結)



製品別売上予測

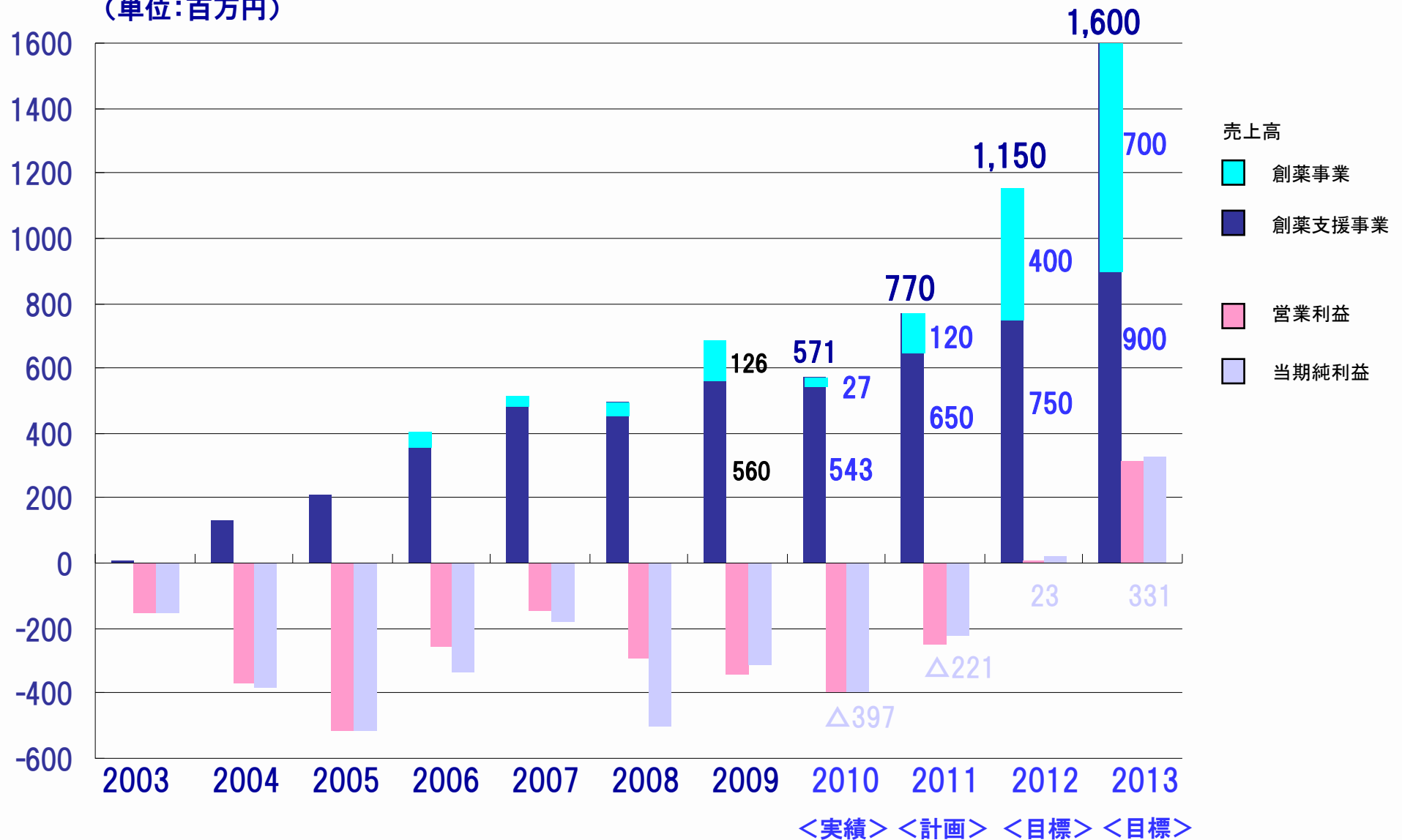


地域別売上予測

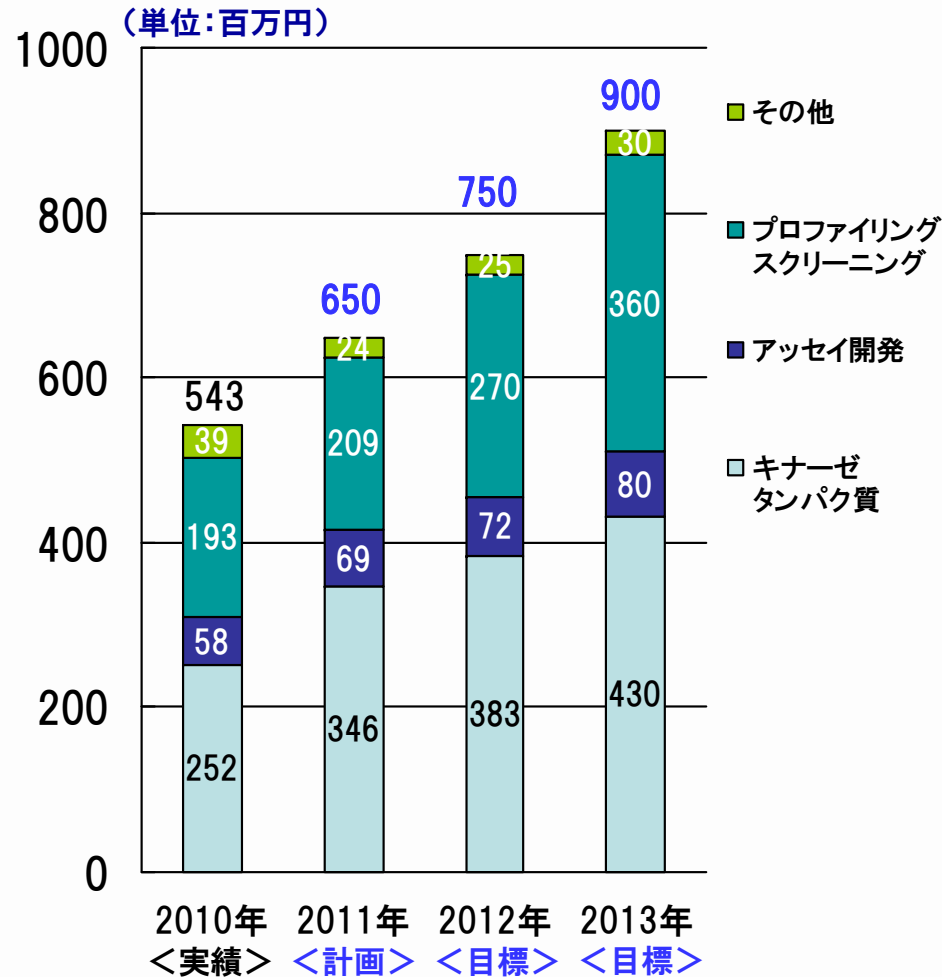


2011年～2013年12月期 中期事業計画 (マイルストーン開示)

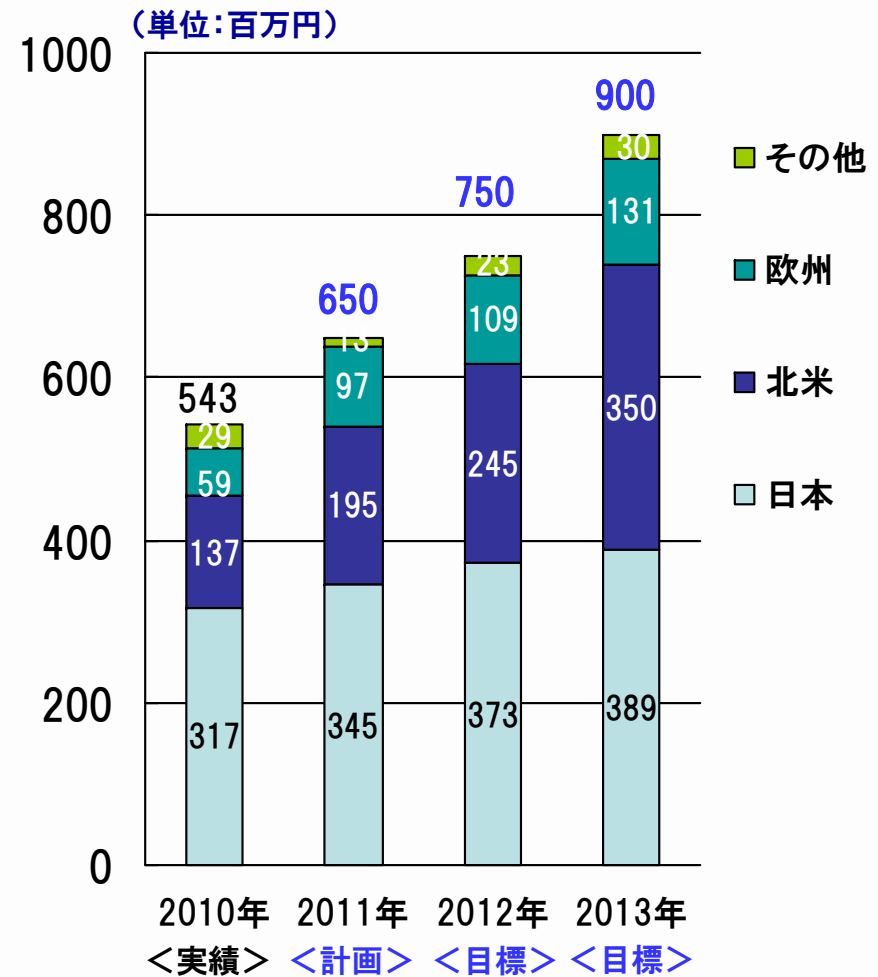
(単位:百万円)



製品別売上高



地域別売上高



- 欧米での売上拡大に取り組む

 - 当社製品の認知度UP（広告宣伝、顧客訪問数増 等）

 - 提案型営業の推進（学術要員の派遣）

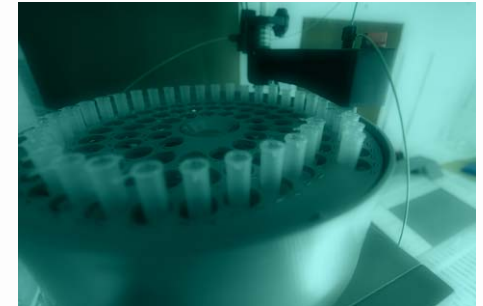
- 顧客ニーズに応じた製品・サービスの提供

 - ビオチン化タンパクなどの新製品の品揃え強化

- プロファイリング・スクリーニングサービスの売上増

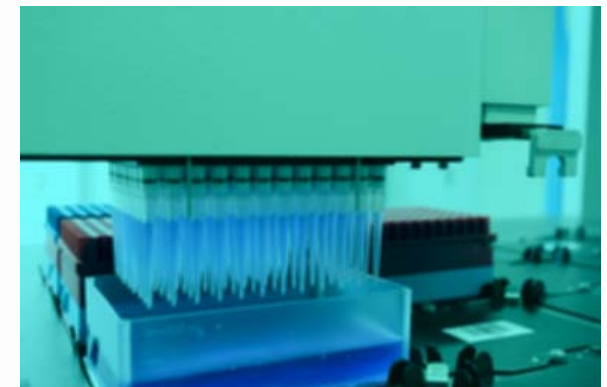
 - リードタイム短縮 ⇒ 顧客満足度向上 ⇒ 売上増

- ガンを重点領域とする。
- 導出を達成するため事業開発機能を強化。
- 2011年12月期に1テーマの導出を達成すべく導出交渉中。
- 薬理機能の強化(2011年12月期に2名採用予定)
- 前臨床試験のマネジメント要員(2012年12月期採用予定)

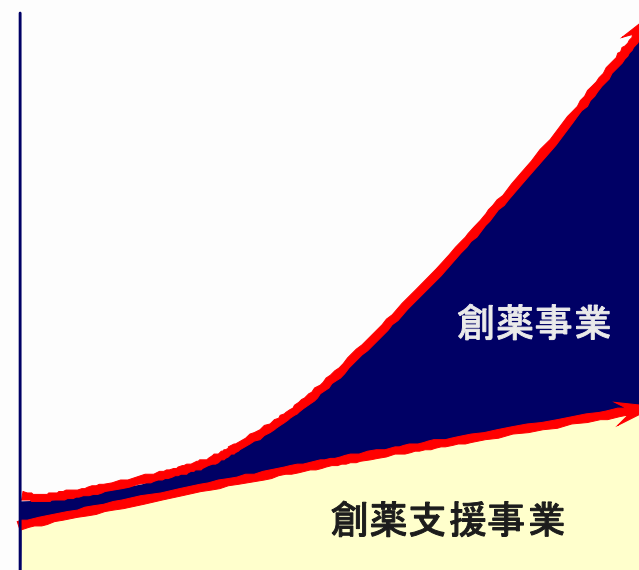


ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)		1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	1	2	2
研究テーマ数		5	5	5

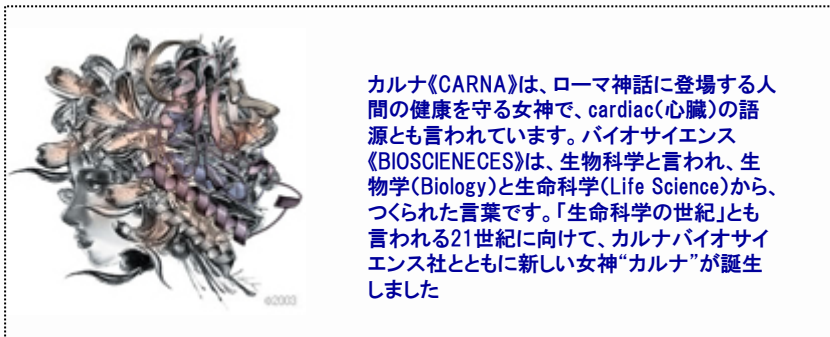
2011年 2012年 2013年
12月期 12月期 12月期



1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2012年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。